

(様式 7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成30年9月28日)

事業コード	H30-建-継-11		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	道路建設班班 (tel) 018-860-2492
路線名等	一般県道 川添下浜停車場線		担当課長名	道路課長 佐藤 秀治
箇所名	秋田市下浜羽川		担当者名	主幹(兼)班長 太田 哲
総合計画との関連	政策コード	03	政策名	未来の交流を創り、支える観光、交通戦略
	施策コード	05	施策名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進
	指標コード	04	施策目標(指標)名	生活道路の機能強化

1. 事業の概要

事業期間	H23 ~ H35(13年)	総事業費	14.8億円	国庫補助率	0.5950	
事業規模	○延長L=2,058.7m、幅員W=6.0(8.5)m(1.25+3.00+3.00+1.25) 歩道なし					
事業の立案に至る背景	○川添下浜停車場線は、秋田市雄和黒瀬から秋田市下浜羽川に至る一般県道である。沿線住民の生活道路として、また、夏期には下浜海岸と内陸部を結ぶ観光道路としても利用されている。 このうち地域内は、家屋が密集しており幅員も狭く急カーブも連続しているため、大型車のみならず普通車同士のすれ違いも困難な状況である。また、通学路指定路線になっているものの歩道もないため、非常に危険な状態で通学していることから、円滑な交通の確保及び安全安心な生活空間の確保を図るものである。					
事業目的	○通学路における児童・生徒の安全確保 ○大型車の走行、車両のすれ違い困難箇所の解消 ○下浜道路へのアクセス道路としての役割					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事 業 費	850,000	1,480,000	630,000		
	経 費	工事費	690,000	1,186,000	496,000	詳細設計による橋梁基礎形式の変更による増
	内 訳	用 補 費	69,000	102,000	33,000	
		そ の 他	91,000	192,000	101,000	用地測量費、事業認定資料作成業務の増
	財 源 内 訳	国庫補助	560,000	880,600	320,600	
		県 債	228,000	539,400	311,400	
そ の 他						
事 業 内 容	62,000	60,000	▲2,000			
事業内容	調査・設計 改良工 舗装工	調査・設計 改良工 舗装工			国庫補助率の変更による	
事業の進捗状況	○平成29年度末で事業進捗率44%(用地進捗率は51%)。 ○平成30年1月L=200m暫定供用済み。平成31年度L=740m一部供用予定。					
事業推進上の課題	○一部用地交渉が難航している。 ○埋蔵文化財の調査					
関連する計画等	○国道7号「下浜道路」					
情勢の変化及び長期継続の理由	○国道7号「下浜道路」平成31年度供用予定。					
事業効果把握の手法及び効果	指 標 名	県管理道路改良率				
	指 標 式	改良率(県管理道路改良済延長/県管理道路実延長)				
	指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	79.3 %		データ等の出典	道路課調べ	
	実 績 値 b	78.8 %		把握の時期	平成30年 4月	
達成率 b/a	99.3 %					

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> ● 選定または継続 <input type="radio"/> ○ 改善 <input type="radio"/> ○ 見直し <input type="radio"/> ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	○羽川地区の日常生活を支える道路であるが、幅員が狭く急カーブも連続しており、車両及び歩行者相互の安全な交通空間確保のためバイパスによる道路整備が必要である。 ○通学路であるにもかかわらず幅員狭小で歩道もないため、児童・生徒の通学は常に危険な状態にさらされている。（住宅密集地であるこの地域の大型車混入率は14.0%である。一般県道の平均値10.8%を上回っている。）	12点
緊 急 性	○国道7号下浜道路の平成31年度供用に合わせて、一部供用することで更に利便性が高まることから早急に整備を行う事が必要である。	15点
有 効 性	○住宅密集地を避けバイパスとして整備されることから地域住民の安全性が向上する。 ○下浜道路から工業団地へのアクセスが向上し、企業誘致など地域活性化にも有効である。	30点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.05であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 14.8億円 ・総便益の現在価値 15.5億円 ○計画交通量 3,600台/日となっている。	13点
熟 度	○平成29年度末の事業進捗率は44%である。	13点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III)	83点
	整備の緊急性、有効性は高いことから引き続き事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> ● 継続 <input type="radio"/> ○ 改善して継続 <input type="radio"/> ○ 見直し <input type="radio"/> ○ 中止	
	事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

--

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 道路改築事業（地域内・生活圏交通促進）

事業コード (H30-建一継-11)
箇所名 (秋田市下浜羽川)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数		3箇所以上	8	8	・車道幅員5.0m ・最小半径25m ・冬期堆雪巾なし
			2箇所	6		
			1箇所	4		
			0箇所	0		
			計 3箇所			
	道路環境上の欠陥該当項目		5件該当	7	4	・通学路指定で歩道なし ・事故率89.4件/億台km
			4件該当	6		
			3件該当	5		
			2件該当	4		
			1件該当	2		
		該当項目なし	0			
	計		15	12		
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無		あり	10	10	国道7号「下浜道路」整備事業
			なし	0		
	緊急度の高い課題の有無	あり	5	5	通過交通の分離により集落内歩行者の安全向上	
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0				
	計		15	15		
有効性	道路の位置づけ					
	生活圏30分形成道路等		該当する	7	7	
			該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路		該当する	7	7	市立秋田総合病院
			該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路		該当する	7	7	秋田市地域防災計画に沿線避難所位置づけ
			該当しない	0		
	社会変化による事業の必要性		必要性が高い	9	9	国道7号下浜道路H31供用予定
			低下傾向	6		
			必要性が低い	3		
		計		30	30	
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)		1.0以上	5	5	B/C=1.05
			1.0未満	0		
	計画交通量		5,000台/日以上	5	3	3,600台/日
			1,000台/日以上～5,000台日/未満	3		
			1000台日/未満	0		
	コスト削減		あり	5	0	
			なし	0		
	事業中止による影響		既投資額の損失大	5	5	大規模バイパス
			既投資額の部分的損失	4		
			既投資額の損失が少ない	3		
	計		20	13		
熟度	事業の進捗状況					
	事業の進捗(事業費)		8割以上完了	10	5	44%
			5割以上完了	8		
			1割以上完了	5		
			1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)		8割以上完了	10	8	51%
			5割以上完了	8		
			1割以上完了	5		
			1割未満	2		
			未着手	0		
		計		20	13	
合計				100	83	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		